

たまいたま 川柳



巻頭言

疑心と疑心

願法みつる

振り込め詐欺で一億円を騙された：夢でも見たら愉快だろうな。だが二十万円なら現実にも有り得る。六月号で紹介された銀座の鴨さんの話も危なかった。善人の代表のように振る舞う方々が、意外な悪人である事実の続出に、背筋の凍る想いの昨今である。信じることは良いことで、疑うことは悪いことと考える素朴な庶民には、全ての事象を正しく見通すことはできない。まして、嘘にも善い嘘や美しい嘘があると知っているから、騙されやすい。人偏に言と書いて信。人偏に為と書いて偽。偽に泣かされながらも、人は信に生きたいと願う。それなのに半信半疑という言葉すらあるから厄介だ。そして人生には、Aを信じBを疑ったのに真実はその逆であった等という、身近な人間関係の悲哀を、幾度噛み締めることか。ニンゲンすべからく、時に誠、時に嘘を吐く、際限のない喜怒哀楽の輪廻ではある。だから、川柳の種は、深く広く尽きることがない。それはニンゲンが嘘を覚えた時からの、業とも言える泣き笑いのエネルギーなのかも知れない。程良く疑い・疑われながら、騙し・騙されながら、けらけらと、川柳を吐き続けて生きるしかない。

十一月号 目次

わたしの好きな句 若月 葉	表紙	1
巻頭言 疑うということ	願法みつる	2
彩玉集 同人吟		5
古丘の世界	文・今村 寿子	6
雑詠	願法みつる選	6
映像川柳	石田 正則	6
七七句	編集部選	14
ふるさと紀行「隠れた歴史の町」	原名 幸雄	17
私の秋「郷愁」	大澤 静江	18
私と化学5(最終回)	石田 隆宏	19
交替鑑賞(十月号より)	小松 召子	21
十人十色のころも	加藤孤太郎	23
初歩添削講座「わかる」雑詠		26
温故知新 川柳誌「武玉川」第七集人集大目併号より		28
影の努力に感謝		29
「埼玉県立久喜図書館」のこと	編集部	29
川柳「銀の笛」249号(巻頭言)から学ぶ		29
他誌展望		29
川柳ワゴン弁天町 短句の会 報告誌 26年10月号		29
題詠		29
「軒先」 藤あかね 選		29
「化ける」 若月 葉 選		29
「ひらひら」 鈴木 誠子 選		29
さいたま十月句会		33
大会等ご案内		33
編集さろん		33
句会案内		33
表紙(題字・清水 美江 写真・千葉 古丘)	表紙	4
	表紙	3

平成26年

11月号 (No.660)

日川協加盟